



《メールアドレス》
akito@kdr.biglobe.ne.jp

市議会議員 中野あきと・事務所ニュース

みどりと清流

第63号

2007年 5月発行

日本共産党中野あきと事務所

日野市南平7-6-72 Tel.599-3350

〒191-0041 発行責任者 小山敏正

しんぶん 赤旗

日刊紙1ヶ月 2900円

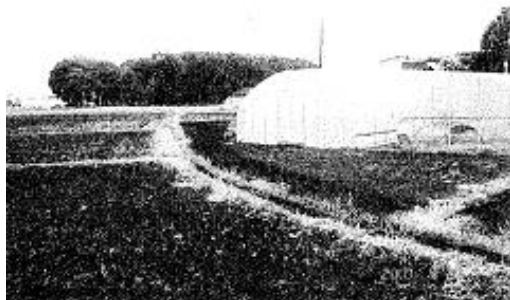
日曜版1ヶ月 800円

お申し込み・南多摩事務所

Tel.042-374-4384

又は中野事務所へ

法律・生活相談など
お気軽にお立ち寄り下さい



川辺堀之内の田園風景

川辺堀之内のまちづくり

「農ある原風景」を残すために

中野あきと市議、三月議会で追及

市議会三月定例会の一般質問（三月八日）で中野あきと議員は、川辺堀之内地域のまちづくり問題を取り上げ、追及しました。

日野の原風景である「農ある風景」が豊かに残されている川辺堀之内地域でいま、組合施行による区画整理が持ち上がったまま、まちなかの風景が失われています。私は、「農ある風景」を残すために避けて通れない、まちづくり上の二つの課題について提案し、検討を求めました。

一つは、開発の動きをどう抑制するかという問題です。とくに区画整理の中で整備される八王子南バイパス（28M道路）の沿道部分について、豊田や万願寺地域のように、高度な土地利用を誘導する用途地域の見直しを行えば、まちなかの姿が一変してしまうことは明らかです。

したがって、用途地域の見直しは従来型でなく、開発を抑制する低層の土地利用を求めるべきであると提案しました。

二つ目は、農地それ自体をどう守っていくかという問題です。区画整理を行えば、通常、強減歩がかり三割をこす農地が減ることになります。こうした農地減少を防ぐために、私は、とくに生産緑地農地の持つ公共的機能（環境保全や防災など）に着目した、減歩緩和の基準が必要であると提案しました。

これに対し市は、「今後十分に検討していきたい」としながらも、慎重な姿勢に終始しました。

今後もひきつづき、地域のみなさんの意向を踏まえ、迫っていききたいと思っています。

一斉地方選結果

●都知事選では
吉田万三さん
が健闘

●市議選では
多摩・稲城で
全員当選

今年のいつせい地方選挙が終りました。四月八日投票の前半戦では、東京都知事選挙で日本共産党推薦の吉田万三候補が前回比一・七倍の六十三万票を獲得しました。この選挙では、日本共産党と吉田さんの訴えが大きな反響

をよび、石原都知事が「反省」や「福祉」を口にせざるをえなくなる状況をつくり出しました。

また、四月二十二日投票の後半戦では、日野市の有志が応援した多摩市と稲城市で日本共産党候補が全員当選しました（多摩市で五名、稲城市で三名）

【都知事選の得票数（得票率）】

	全 都	日野市
吉田万三 (2007年)	629,549 (11.4%)	9,078 (11.6%)
若林義春 (2003年)	364,007 (8.23%)	5,614 (8.86%)

短 信

久しぶりに川辺堀之内を散策しました。神明の段丘の下、田園地帯の風景は変わりませんが段丘の端に日野バイパスがとりつき、緑だった崖線が城壁のようなコンクリートに覆われ、その上を勢いよく車が走り抜けていました▼日野に越して来て十三年になります。以前所用のおり、車で何度か通り抜けた市内はいたるところに用水が流れ、緑ゆたかな美しい街という印象を強くもっていました▼浅川の堤防、多摩丘陵の尾根道、黒川清流公園など豊富な清水の湧き出る崖線、田園がひろがる三沢や川辺堀之内。変化に富んだ豊富な散策路をもつ、まさに「みどりと清流のまち」です▼春、川辺堀之内のたんぽろを埋める蓮華の絨毯。水をはったばかりの田園を渡る涼やかな風。黄金の穂が波打つ収穫の秋。木立の向こうに遠慮がちに顔をのぞかせる低い火の見やぐら。残しておきたい貴重な風景です▼川辺堀之内にはもう一本、道路が突き抜ける計画があります。区画整理の開発規制はまだまだ不十分です。こわされた景観は二度ともとは戻りません。(K)

※おことわり＝本紙四月号はいつせい地方選挙のため休ませて頂きました。ご了承ください

都知事選での

大きな成果

都議会議員 村松みえ子

みえ子の
飛びある記



石原都知事の選挙公約「東京再起動」を見て、私は一瞬、目を疑ってしまいました。「中学3年生までの医療費負担をゼロにします」と書かれているではありませんか。これまで知事は、日本共産党議員団が条例案を提案したり、新日本婦人の会などが請願しても、「対象年齢を拡大するつもりはない」と聞く耳を持つとしなかったからです。

「福祉はぜいたく」「ばらまき福祉」と、福祉を目の敵のように攻撃し、削減してきた石原知事にここまで言わせたのは、いったい何だったのでしょうか。

2億4000万円使った豪華海外視察、一晚50万円の飲み食い政治、四男を関わせた都政私物化などでの、日本共産党と都民のみなさんによる徹底した追及と世論が、選挙中の論戦をリードしました。オリンピック招致問題、築地市場の豊洲移転問題、憲法問題などでもそうで、他の候補者がいいわけに回ったり、途中から態度を変えざるをえない状況をつくってきました。

石原知事の選挙公約は、こうした攻勢的な選挙戦の成果であると確信しています。とりわけ多摩地域は、都の積極的な財政支援がないと中学生までの医療費助成には踏み出せないだけに、これは大きな成果です。

地域ミニニュース

【西平山で区画整理懇談会】

西平山地域で定期的に行われている区画整理懇談会が3月21日、開かれました。今回は、移転と補償の問題について、あらためて中野あきと市議から話題提供が行われ、参加者から質問が相つぎました。

西平山では、今後、建物移転が本格的にすすめられる段階に入り、今年度も23棟の移転予算が組まれています。

【平山城址公園駅前の複合施設、着工へ】

平山城址公園駅前の複合施設は、今年度予算に建設が組み込まれ、着工の運びとなっています。

同施設は地上3階建て、延べ床面積2100㎡で、1階が地区・交流センター、2階が図書館、3階が多目的ホールになります。

ほかに子育て応援施設も予定されています。完成は来年4月の予定です。



迷走の果て

「市民の森ふれあい

ホール」はいま……

市の負担は3割増

大ホールに見合った

利用があるの？

二〇〇一年に始まった「総合体育館」建設計画は、紆余曲折の末、二〇〇六年七月に「市民の森ふれあいホール基本計画素案」（以下「素案」）としてまとめられました。

「体育施設」から「ふれあいホール」に変わったのは、「都市再生事業の名目で国の補助金をもらうため」と説明されました。国の都市再生事業の補助対象はイベントや交流などの施設で、体育施設は対象にならないというわけです。施設の規模も、当初の一万平米から五五〇〇平米まで縮小されました。

ところが、市民の意見募集

を経て、二〇〇六年十月に「市民の森ふれあいホール基本計画」（以下「計画」）が発表されると、規模は再び七〇〇〇平米に拡大し、建設費用も「素案」の二十二億円から、「計画」では二十八億円に膨れました。施設の位置づけも、「交流事業」「イベントの拠点」「観光事業の推進」が前面に掲げられました。

観光事業が前面に

「計画」は、建設費用が増えても、国や都の補助金が増える見込みなので、市の負担は増えないとしています。しかし、見込みどおり補助金が確保できたとしても、ランニングコスト（管理委託料、修繕費）と借金の元利償還を合わせた市の負担は、「素案」の年平均約一・八億円から、「計画」では二・四億円へと増えることになりました。

「イベント」や「観光事業」をあてに大きなホールをつくっても、それに見合った利用があるのか、現在の市のスポーツ予算の全体が二・五億円であるのに、一つの施設だけにそれに匹敵するような予算を使つて他にしわ寄せされることはないのか等々、慎重な検討が必要ではないでしょうか。

《07年6月の無料法律相談》

◆村松みえ子事務所

午後6時～8時 6月7日（木）

◆市役所6階・共産党議員控室

午後1時～3時 6月14日（木）

※予約が必要ですので、お申し込み下さい。

村松事務所 Tel.582-0504

中野事務所 Tel.599-3350